

久留米市次期総合計画（案）について

1 策定趣旨

今日、久留米市を取り巻く環境は、少子高齢化・人口減少の進行をはじめ、社会情勢の急速な変化が続いており、大きな時代の転換期にある。先行きが不透明な時代の中でも、まちが元気であり続け、人々が幸せを感じながら久留米で暮らし、活動していけるような久留米を創っていくための未来設計図として策定し、新たな久留米のまちづくりの指針とする。

2 計画の名称

策定趣旨を踏まえ、次期総合計画の名称を「久留米未来デザイン計画 2035」とする。

3 計画の構成と期間

構成	内容	期間
基本構想	将来都市像・基本目標	令和 8～17 年度（10 年）
基本計画	施策体系	令和 8～12 年度（前期 5 年） 令和 13～17 年度（後期 5 年）
事業計画	事業体系	3 年間（毎年度ローリング）

4 まちづくりの視点

（1）人口減少に本格的に向き合ったまちづくりへの転換

- ・人口減少のスピードの緩和
- ・人口減少や人口構造の変化の影響を見込んだ戦略性をもったまちづくり

（2）一人ひとりを大切にしたい人づくりと共生、協働の深化

- ・あらゆる施策において人づくりの視点をもったまちづくり
- ・支え合いながら共生できる環境づくり、協働の仕組みや環境づくりをより広げ深めるまちづくり

（3）時代の潮流をとらえたまち全体の変革・更新

- ・気候変動リスクや急速なデジタル技術の進展、市民ニーズの多様化など環境の変化への対応
- ・様々な領域で変革・更新を重ね、新たな魅力や活力を生み出すまちづくり

5 将来都市像

（1）設定の考え方

- ・10 の基本目標を達成した状態を 1 つの将来都市像として設定する。
- ・市民意見を踏まえて、「住みやすさ」や「暮らしやすさ」、「まちのにぎわい」、「つながりや支え合い」からもたらされる暮らしの豊かさを実感でき、その状態が持続されるイメージで将来都市像を設定する。

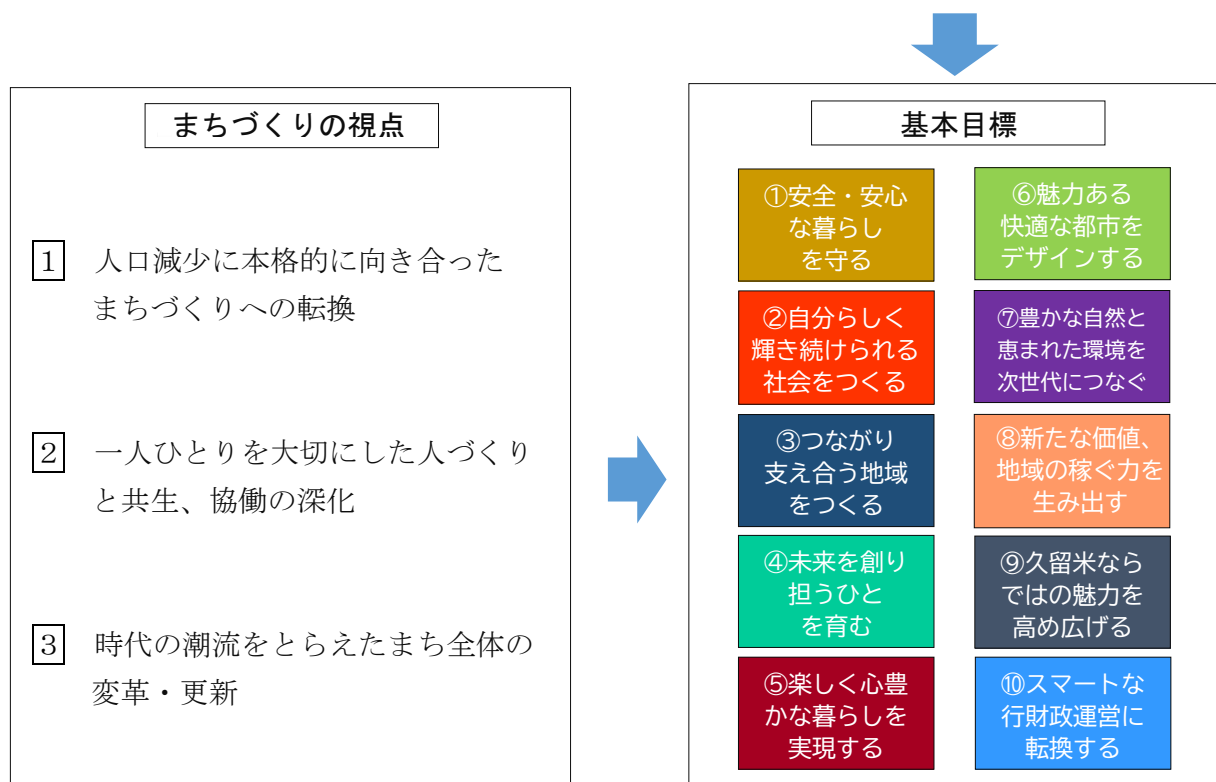
(2) 将来都市像

将来都市像

『優しさ 豊かさ 輝き あふれるまち』 ～住んでみたい 住み続けたい 久留米～

将来都市像のめざす状態

- すべての人の個性が大切にされ、人と人とがつながっている
- 久留米が誇る水と緑の豊かな環境、人、都市が共生している
- 洗練された都市とそこで暮らす人が、創造性と躍動性をもっている



(3) 市民意見の概要

- ・市民アンケートの現状では、「豊かな自然」をはじめ、「医療機関や交通などの都市環境」、「グルメ」など、「ほどよい住みやすさ」が評価されている。
- ・市民アンケートの未来の久留米に望むものでは、「住みやすさ」「暮らしやすさ」「子ども」に加えて、「遊べる」「増やす」「商業施設」「商店街」など「活気」やにぎわいが求められている。
- ・個別意見では、「人・社会とのつながりや支え合い」、「安心して豊かにいきいきと幸せに暮らせるまちづくり」も求められている。

6 人口フレーム

次期総合計画の期間が終了する令和 17（2035）年度末の久留米市の将来人口を 28 万 6 千人と推計（※R5 年度推計値のため、最新推計に変更予定）